

2014年12月22日

環境教育インストラクター養成セミナー

(かながわ環境カウンセラー協議会)

報告書

KECA 環境教育委員会

岡本正義

- 開催日：2014年11月29日(土)、30日(日)
- 時間：第1日目10時～17時、第2日目10時～15時45分
- 会場：あーすぷらざ(神奈川県立地球市民かながわプラザ)大会議室ほか
- 主催：NPO法人環境カウンセラー全国連合会(略称 ECU)
NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会(略称 KECA)
後援：環境省 関東地方環境事務所
神奈川県
- 参加者：21名(首都圏(東京、神奈川、埼玉)19名、広島、福島各1名)
- 修了者：21名

【セミナー内容】

- 第1日目(11月29日、10時～17時)

司会進行： KECA 環境教育委員会 片野 真琴

1. 主催者挨拶

- (1) 環境カウンセラー全国連合会 理事長 佐々木 進市氏
- (2) かながわ環境カウンセラー協議会 理事長 木村 信幸

2. 講義

- (1) 総論1 最近の環境行政の主な動向：E S Dについて
環境省 関東地方環境事務所環境対策課 課長 平野 寛人氏
- (2) 総論2 環境カウンセラーから見た最近の環境問題
NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会環境教育委員会
委員 大竹 順之
- (3) 各論1 環境教育の場と安全教育
NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会環境教育委員会
委員 日吉 榮一
環境教育実践事例(1)〈小中学生の環境教育〉
NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会、森林インストラクター
品川 高儀
環境教育実践例(2)〈森林の環境教育〉
NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会環境教育委員会
委員 池田 浩
.....(昼食・休憩：12時40分～13時40分).....
- (4) 各論2 環境教育を行う上での要点
環境教育実践事例(3)〈県全域小中学校〉
NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会環境教育委員会
委員長 岡本 正義

3. ワークショップ

(1) ワークショップ (WS) 実施要領の説明

NPO 法人かながわ環境カウンセラー協議会環境教育委員会委員長 岡本 正義
委員 日吉 榮一

[グループ分け]

A グループ：地球環境・生活環境、環境経営・事業者教育

B グループ：自然環境系

※事前通知

- ①参加者全員宛て、セミナー2週間前にワークショップ実施要領についてメール発信し、自分の専門(得意)分野を決め、「環境教育実施計画書(骨子案)」を作成、または構想を準備してくるよう連絡した。
- ②第1日目受付時、A、Bいずれのグループを希望するか再確認してもらった。

(2) ワークショップ

- ①目的：本日の宿題とする「私の環境教育実施計画書(骨子案)」を作成するにあたり、グループで「共通テーマ」が決まれば、参加者で話し合い実施計画書のモデル(例)を作成する。「共通テーマ」の絞り込みが難かし場合は、それぞれの「環境教育実施計画書(骨子案)」を説明し、参加者から意見/質問・アドバイスを受ける。
- ②届け出では、Aグループ11名、Bグループ10名であり、人数バランスが取れていた。
 - ・A-1グループ(6名、コーディネーター：岡本、大野)＝研修室A
 - ・A-2グループ(5名、コーディネーター：齋藤、三島)＝研修室A
 - ・B-1グループ(5名、コーディネーター：池田、大竹)＝りりす会議室
 - ・B-2グループ(5名、コーディネーター：日吉、嶋田)＝りりす会議室
- ③各グループとも、時間(17時)いっぱい熱心な意見交換が行われた。
- ④翌日受付時に宿題：「実施計画書(骨子案、A3判)」を提出してもらうことを再確認して、第1日目を終了し解散した。

□ 第2日目(11月30日、10時～15時45分)

朝の受付時に宿題「私の環境教育実施計画書(骨子案)A3判」を提出してもらい、各グループ全員に配布する必要部数をコピーした。

1. 講義 各論3

環境教育実践事例(4)〈事業者対象〉

NPO 法人かながわ環境カウンセラー協議会環境教育委員会
委員 三島 通世

2. 【コーヒブレーク：参加者交流会(多目的室)】

広島、福島、東京、埼玉などの神奈川県外からの参加者が多い(半数以上11名)こともあり、コピーができるまでの時間を使って約30分間の参加者交流会の時間を設けた。

- ・飲み物：緑茶、ウーロン茶、ジュース(オレンジ、リンゴ)、カルピス
- ・クッキー、煎餅などのお菓子

当初ぎこちなかったが、すぐにあちこちで2人ずつあるいは3人グループでFace to Faceの意見・情報交換の場ができ、30分で打ち切るのがもったいないような雰囲気だった。みなさん、この後の模擬授業にリラックスして臨めたのではないかと思う。

3. グループごとの模擬授業

4 グループに分かれ「環境教育実施計画書（骨子案）」「評価シート」のコピーを配布して、一人ずつ「模擬授業」を実施した（Aグループ、Bグループとも一人、10～15分）。

全体の概要を話すのではなく、授業プログラムの一部で一番話したいこと、伝えたいことに絞って、講師になった積りで話してもらった。（3）

他の人は講師（発表者）が想定する年代（小中学生、高校生、市民・・・）になって話を聞き、質問してもらった。その後、講師としてのやり方、内容等に対して、アドバイス、意見などが話し合われた。

全員の発表後、各グループごとに午後のデモンストレーション授業を行う代表1名を選出した。
・・・・・・・・・・（昼食・休憩：12時40分～13時30分）・・・・・・・・・・

4. 各グループ代表の模擬授業

A-1、A-2、B-1、B-2の順で各代表4名が発表した。

(1) 岸保さつきさん（墨田区）「ごみを増やさない生活」 対象：小学生

3回の授業を想定して、1回目の授業でごみの分別に関心を持たせる寸劇を行い、且つ、児童が授業に関心を持つようにごみを使った手品風クイズをやったり、児童への声掛けを交えながら授業を進めた

(2) 小針秀夫さん（桶川市）「地球温暖化防止について」 対象：一般市民

温暖化の原因であるCO2の要因とその結果としてリンゴの生育の変化などをビジュアルで判りやすく説明する。個人ができる対策として、1日8時間の3%（15分）を省エネ努力することを促す。

(3) 立石陽子さん（相模原市）「身近な鳥の観察」 対象：親子

鳥の観察会を想定して、最初にいろいろな鳥の写真を見せて、何の鳥か？雀、鳩、カラスを見せて大きさの目安になる「ものさし鳥」であることを紹介。その後、野外での模擬観察会を想定して、鳴き声を聞き、人が聞こえた面白いフレーズの「聞きなし」を紹介した。

(4) 関 隆嗣さん（杉並区）「鳥の餌と生息環境」 対象：親子

鳥のくちばしの画像を見て、鳥の名前当てを行った後、身の回りにあるストロー、スプーン、網杓子、银杏割りなどを使って、鳥と結びつけるクイズを行い、餌をとる仕組みを理解させるなど

* 今回の代表4名の方は、すでに地元（学校）で環境学習を実践している人だったようで、講師（先生）になりきって、準備したUSBデータ、写真や持っていたごみ、急遽100円ショップで購入した機材などを使って、手振りも鮮やかに大変分かりやすく、すばらしい模擬授業を行った。

* 参加者の中には「すでに実践している」「できればすぐに実践したい」という人が14人いて、模擬授業は大変役に立った、ワークショップと模擬授業こそがメインであり、模擬授業は続けてくださいとのコメントもあり、かながわの養成セミナーの主目的である実践力を付けるセミナーの狙いは、達成されたと考える。

* 各発表の後、それぞれのコーディネーターから講評、アドバイスがあった。

5. ECU環境教育インストラクター資格認定手続き説明： KECA環境教育会委員（三島）

6. 養成セミナー修了証の授与

ECU役員 木村信幸（急用で欠席）代理としてKECA副理事長 高橋弘二から一人ずつに修了証を手渡した。

7. アンケート記入・提出

個別質問・相談

====15時45分終了、解散====

アンケート結果も踏まえて本セミナーの総括

- (1) 遠く広島、福島をはじめ東京、埼玉などの地元神奈川以外からの参加者も多く、参加者の積極的な姿勢もあり、有効なセミナーが開催できた。
- (2) 11月にESD ユネスコ世界会議が名古屋で開催され、関東地方環境事務所の平野寛人環境対策課長の講演もESDに絞って行われ、環境教育インストラクター養成セミナーとして、時機を得たセミナーとなった。
- (3) KECA のインストラクター養成セミナーは、実践事例を多く紹介し、ワークショップに引き続き模擬授業を参加者に行って頂き、企画・立案力に加えて実践力を高めるセミナーを特徴としている。参加者のアンケートからも実践事例をいろいろ聞いて良かった、ワークショップは様々なやり方、テーマが参考になった、模擬授業は続けて下さいなどの声が聞こえて良いセミナーになっていることを実感した。
- (4) 30分と短い時間であるが、茶菓を用意して「参加者交流会」を開き、参加者同士あるいはKECAメンバーとの交流・懇親ができた。人脈づくりの一助ともなった。
- (5) グループ代表による模擬授業は、非常にレベルが高かった。プログラム全体を長々と説明せずに、ある切り口を取り出し簡潔に、且つ分かり易く授業することが出来ていた。
- (6) 参加者の評価は、内容、テーマを含めて86%の18名から満足の評価を頂いた。KECA 環境教育委員会のメンバーが三島リーダーの下、一致団結して集客、事前準備、当日の運営を行うとともに講師陣が知恵を絞って講演内容をブラッシュアップした成果と考える。
- (7) 会場が駅から近くで良かったが、ワークショップなどの会議室の移動が多かったのは、今後の運営での注意事項であろう。
- (8) ワークショップについては、テーマの絞り込みが必要、一人当たりの時間が短い、発表できない人のフォローアップ、経験のない人に発表の機会をあげた方が良い、自然系は屋外が良いなど、いくつかの課題が出てきた。次回への検討課題としたい。
- (9) 環境カウンセラーになりたい、あるいは考えてみたい人が18人もいた。KECAとして「環境カウンセラー養成講座」は、現在は横須賀三浦地区で開催しているだけだが、各支部で開催するようにプッシュしたい。

平成 26 年度環境教育インストラクター養成セミナー（11 月 29 日、30 日）

写 真 集

1. 挨拶



写真 1 ECU 佐々木理事長挨拶



写真 2 KECA 木村理事長挨拶

2. 講義



写真 3 関東地方環境事務所
平野対策課長の講義

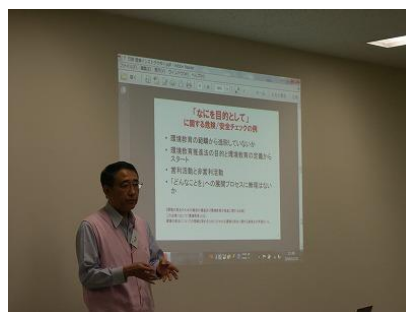


写真 4 安全対策の講義（日吉講師）



写真 5 実践事例(1)の講義（品川講師）

3. 実践事例の講義



写真 6 実践事例(2) の講義（池田講師）



写真 7 実践事例(3) の講義（岡本講師）



写真 8 実践事例(4)の講義（三島講師）

4. ワークショップ



写真 9 A-1 グループ



写真 10 A-2 グループ



写真 11 B-1 グループ

5. 参加者交流会 写真 13



写真 12 B-2 グループ



6. グループ代表の模擬授業



写真 14 A-1 グループ：岸保さん



写真 15 A-2 グループ：小針さん



写真 16 B-1 グループ：立石さん



写真 17 B-2 グループ：関さん



7. 修了証の授与

写真 18